

## 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

### 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)      グループホーム紫原  
あじさい

所在地 (県・市町村名)      鹿児島市

記入者名 (管理者)              久保 良子

記入日                      平成20年 6月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまで理念を見直しし、住み慣れた地域での安心した暮らし、地域住民との交流を増やし、地域関係性強化を図った。理念を作り上げた。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・受付・ホール等に掲げており、毎朝職員全員で唱和する事で再確認し、実践に向け日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約書や毎月のホーム便りに、理念を記入し家族に送付している。家族会や推進委員会、又、町内会の会合イベントの参加時等折に触れて、事業所の実践を伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩や買い物等に出かけ、隣近所の人・顔見知りになった人に、積極的に挨拶をしている。季節の果物や野菜を持って立ち寄って下さってもいる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や夏祭りに参加して、交流している。避難訓練の参加や、人権擁護教室・救急蘇生教室のチラシを配って呼びかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が相談に来られ、管理者が相談に乗っている。町内会長さんや民生委員の方と密度がある交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の経過は、ミーティングで報告し、改善に向けて検討し、実践に繋げる為の努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族や町内会長・民生委員に参加して頂き、意見や要望を頂いている。意見は職員へ伝えケアに活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口に対して、年間の行事予定表や、ホーム便り等を送付したり持参しているが、職員との交流は無い。		今後、是非、市町村の担当者に意見を貰っていきたい。地域担当の方に会議への参加をお願いしている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加している。 現在は必要な人はいないが、今後、必要な人には活用していきたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で、高齢者虐待防止法について、理解に努めている。		日々のケアをしている中で、これは虐待になるのでは？と思うこともあり、ミーティング等で話し合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は時間をとり、利用者・家族の話を聴き、納得されるまで説明等を行っている。</p> <p>解約時も、充分話を聴いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者より、意見・苦情があった際は、ゆっくりと聴き、書面に記し、スタッフ全員でその都度話し合っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、行事予定表に個々に写真を載せ、生活ぶりを書き送付している、又、面会に来られたご家族にその都度報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より家族との会話を大切にし、相談・苦情解決処理体制をとっており、ミーティング等で話し合っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング・勉強会等を行い、意見を聴くようにしている。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけしたり聞き出したりしているが、不満・苦情全部把握しきれていない事もある。</p>		<p>全員に意見や不満等何でも書いて封書でもらうようにする。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員間で話をし、担当の係を変更したり、勤務の調整を行い、遅出を今回から取り入れた。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、各ユニットの職員を固定し、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。新しい職員が入る場合、利用者を紹介し、利用者からホームの事を教えて貰うよう工夫をしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	毎月ミーティング時、当番を決め内部研修を行い、外部研修に参加した際は、必ず、全職員が共有出来るよう、研修内容を朝の申し送り時や、ミーティングで報告している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、谷山地区グループホーム研修会に参加したり、他のグループホームの見学や、学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上に励んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常職員の疲労やストレスの要因について気を配り、話を聴いたり、気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実施をし、職員の心身の健康を保てるよう、努力している。又、職員の資格取得に向けた支援を行い、職員が向上心を持って働けるよう、環境作りに努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について、相談があった場合は、必ず、本人・家族にあって、生活状態を把握するよう努め、求めている事や不安を理解しようと工夫している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話による相談や、来訪による相談を受け、利用に至った後は、ホームでのまようし物後に家族会等を行い、よく聞く機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	訪問看護を利用している方や、フットケアを利用されてる方、訪問カットの利用等している。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	家族からの情報を得て、スタッフが共用し他の入居者へも声かけし、本人が安心して馴染めるよう見守り、家族や友人に頻りに来て頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	普段より台所手伝い(野菜切り・食器洗い・配膳)や洗濯物干し、たたみ、買い物、おやつ作り等、一緒に行っている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族の面会時、催し物への参加の声かけをし、近況報告をしたり、写真を見て頂き、又、本人の希望時、電話をかけた後、家族からも電話をして頂いている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	行事の案内、参加の声かけをし、一緒に過ごす時間が持てるよう努めている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	近所の方や、友人・知人・家族が訪ねて来られる。又、来られた際は、再度、来て頂けるように声かけしている。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	日頃、利用者同士で出来るお手伝いを協力しながら、やって頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時折、面会へ行き会話している。又、電話が来た際も話し、相談に乗っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、どのように暮らしたいか、何をしたらいいか、誰に会いたいか、日々に関わりの中で声をかけたり、言葉や表情から把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っていた、家具・洋服・仏壇・アルバム等を持って来てもらい、これまでの暮らしぶりを聞き、近付けるような環境作りに努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り時に、前日等の情報交換を行い、又、一人一人への声かけ、会話や表情・動向を見て、その人自身を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・御家族へは、日頃の関わりの中で、思い・意見を聞き入れて、情報を入れて、介護計画の作成に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人・御家族・主治医・スタッフでカンファレンスを開き、意見交換をし変化があった時は、見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録には、全員が目を通し、申し送り時、ミーティングで話し合っている。 毎日の日誌には、スタッフ全員のサインをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族の面会や宿泊、本人・家族の状況や要望に応じている。又、本人・家族の状況に応じて、通院等支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小・中高生が、職場体験や慰問に来られ協力を貰っている。 地域よりギター演奏や、歌・花壇に花や野菜を植えたり等のボランティアさんが来られて、支援してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理容サービスを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ、包括支援センターとは、関わりは持っていない。が、他の居宅事務所との関わりは持っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の全面的協力もある。協力病院以外の受診出来ない利用者に、訪問看護や主治医に往診してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神保健師、及び、認知症専門医と相談・連絡を取っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居時は全員、CT・採血等の検査や肺炎球菌の予防接種を受けている。又、定期健診も受けており、利用者の健康状態に変化があった際は、すぐ、看護師に相談し往診等を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は、必ず、電話連絡や面会に行っており、担当医に必ず、症状の説明を受けている。又、家族とも連絡を取り合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は末期の方はおられないが、過去に数名入居されていた。食事を摂れる間は、当ホームでお世話をしていた。		今後も可能な限り、お世話をしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在はいないが、今後そういう状態になる方がおられたら、家族の意向を捉え、医師と連携を取り、安心した最後を迎えられるよう、家族の意思を確認しながら、取り組んでいく体制作りをしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係者間で、密に連絡を取り合い、情報交換を行っている。又、馴染みの職員が、機会を作って訪問に行き、ダメージを最小限になるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員間で排泄の確認等を行う時に、大声を出しているので気を付けている。</p> <p>記録等の個人情報の取り扱いには、気を付けている。</p>	<p>トイレ介助の際、ドアを開けっ放しにしないよう気をつける。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に声かけをし、意思の疎通を図っている。</p> <p>言葉を語れない方とは、表情や動きを読み取り、本人が決めていけるように努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースを守りながら、過ごして頂けくように努めている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしい身嗜みやお洒落を支援し、素敵ですねと言葉をかけている。理容・美容は、出張に来てもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の皮むき・食器洗い・セッティングや下膳等、一緒に行っている。おやつ作り・餃子作り等を行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>金柑・梅酒・らっきょう・竹の子・つわ・隼人瓜等、四季折々の食材を日常的に楽しんでいる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレに行くよう声をかけや案内をしている。パットを使用されている方でも、時間を見計らって、トイレで排泄出来るよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、入浴中はゆっくり本人のペースで入っている。シャワーに於いては、いつでも使用できる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日、近くの公園へ散歩に行き、ボール投げや遊具で遊んだり、日中の活動を促し生活リズムを整えるよう、努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや、梅干・らっきょう漬け・干し柿作り等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。外出・買い物や地域の行事への参加の楽しみ事を、利用者と相談しながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている方もいる。家族よりお金を預かり、事業者が管理している方でも、外出時などは、自分で支払って頂けるように、工夫している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性につながるよう、日常的に散歩・ドライブを兼ねた買い物や、外食、お弁当を持って戸外にも出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	娘さんの自宅へ行きたいという希望があり、家族と相談し、実現する事が出来た。他の入居者さんに関しても、実現するための方策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の出来る方は、自らされている。 電話の出来ない方は、家族にして頂くようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は決めておらず、仕事帰りや御家族の都合のいい時に、親元を気兼ねなく訪れるような、雰囲気作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや毎日の申し送り等で、自覚しない身体拘束が行われていないか、振り返っている。高齢者の権利擁護や、身体拘束に関する勉強会を実施し、共有認識を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、一切鍵をかけず、利用者が外出しようとする時は、止めるのではなく、声かけしたり、一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じホールで、記録等の事務作業しながら、全員の様子の把握をするよう努めている。入居者の殆どが、起床時から就寝時まで、ホールにおられる事が多い為、所在や様子の把握や安全への配慮もしやすい。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	鉈・金槌・ノコギリ等は、鍵のかかる所に保管しているが、スタッフと一緒に使用している。 包丁も目の届かない所に保管しているが、一緒に調理する時は、使っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者さんの状況に応じて、予測される事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全員の職員が対応出来るようにしている。又、急変時の連絡方法や、事故発生時において、初期対応のマニュアルを備えている。		地震発生時等の様々な事例を想定し、もっと訓練する必要がある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、年2回、利用者と共に、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練を行っている。毎回、ホーム周辺の方へは、チラシ配り・お知らせ・お願いしている。		特に夜間での訓練を、もっと、すべきである。又、地域の方々にも訓練に参加して貰えるよう、チラシを作成し回覧板で知らせていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の恐れのある人等は、必ず、家族に今の利用者の状態を説明し、リスクについてや起こったときの対応について、説明し納得してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタルチェックを行い、利用者との日頃の会話や、様子等から異変を発見する。その日のリーダーに、直ぐ報告し、看護師への報告、必要時は受診をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬の名前・効果が表になった物を、個人毎でまとめてあり、職員が確認するよう努めている。		利用者様の服用している薬の名前、効果等を表にし、全職員が見られるよう、休憩室等に貼り、周知するまで何度も見るよう声かけする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつ時にヨーグルトや、芋を食して頂き、入浴後・入眠前等牛乳を飲んで頂いている。又、散歩・家事活動等、体を動かす機会を適度に設けて、自然排便出来るよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に声かけを行い、自分の歯の方は見守り介助行い、義歯の方は、夕食後薬にて洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の栄養士により、カロリー計算をしてもらい、指導を受けている。また、水分は食後のお茶・15時のお茶時間や外出後の水分補給を必ずし、声かけを行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰ってきてからの手洗い・うがい、又、その日の食事当番が台所に入る時は、石鹸でしっかり手を洗い、カネパスで手・指消毒をしている等、予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買い物に出掛け、新鮮で、安全な食材を使用している。食器乾燥機を使用し、まな板の漂白・冷蔵庫の定期的掃除を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物前には花を植え、明るく見えるようにしている。又、玄関前にはベンチ等を置き、ゆっくり話したり出来るようにしてある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらう様に、その季節の花や、飾り物を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳・ソファを置き、玄関の内外には、ベンチを置いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や、使い慣れた目覚まし時計・カーペットやコタツ等、部屋に持ち込まれ、今迄の生活スタイルになるべく近い状態で、生活出来るよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、換気を行い、トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにして、工夫している。 冷暖房は外気温5 以内とし、温度調節をこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流し台の高さは、利用者の使いやすい高さになっており、利用者の手伝いも多い。浴室・トイレ廊下等に手摺を設置し、自立した生活がおくれるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室は一人一人親しみのある、野菜のオブジェを設置し、自分の部屋が分かるようにし、トイレもセンサーが付き、分かるようにしてある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者が安らげるよう、玄関先にベンチを置き、涼んだり、日向ぼっこしたり、会話を楽しめるようにしている。又、庭に花を植えたり、野菜を栽培し、利用者と一緒に楽しみながら収穫している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホーム紫原 あじさい

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

安易なオムツ使用はせず、職員もオムツ使用体験をし、オムツ使用する気持ちを知り、なるべくトイレでの排泄を心掛けている。  
又、地域の様々な大正琴・ギターやハーモニカ演奏による弾き語りや、文化祭への招待・幼稚園児との運動会等での交流、小・中・高校生による、慰問や職場体験を受け入れ、町内の夏祭りで浴衣を着て踊ったり、全利用者が住み慣れた地域で安全に安心して、楽しく暮らす事が出来る環境作りに努めている。